

特別展覧会

聖徳大学附属幼稚園創立50周年記念

飛鳥童の絵本

『タピセロとんとん』原画展



『タピセロとんとん』〈原題『Tapicero Tap Tap』〉より
Tundra Books 社(Toronto & New York)、2006年発行

ごあいさつ

聖徳学園は、1933(昭和8)年、東京市大森区(現 東京都大田区)に、聖徳家政学院と新井宿幼稚園を開設したことに始まります。

創立以来一貫して児童教育、女性教育を中心とした教育に力を注いでまいりました。現在は、幼稚園から大学院に至るまで18の教育機関を擁する総合学園として展開しております。

本年(2016年)は、聖徳大学附属幼稚園が創立50周年を迎えます。また、聖徳学園多摩中央幼稚園が40周年、聖徳大学附属小学校が30周年、さらに聖徳大学附属成田幼稚園が40周年の節目にあたります。

これらを記念して、本学園が収蔵する学術資料の中から、絵本作家として世界的に著名な飛鳥 童(あすかわらべ)画伯の作品を公開します。

本学園では高円宮妃久子殿下の著書『冰山ルリの大航海』(講談社、1998年)をはじめ、音楽の絵本シリーズ『真夏の夜の夢』(アリス館、1977年)、『Aska's Sea Creatures』(Doubleday社、1994年)の原画など、飛鳥画伯の作品を多数収蔵していますが、今回は、新たに収蔵した『タピセロとんとん』(原題『Tapicero Tap Tap』)(Tundra Books社、2006年)の原画を初公開します。

飛鳥画伯は、鮮やかな色彩感覚とイマジネーションあふれる作風が評価され、トロント出版文化大賞、ライプチヒ国際図書展栄誉賞など世界各地で数々の賞を受賞されています。

自然の風景の中に創造の世界が描かれた暖かさと優しさに満ちた飛鳥童ワールドを存分にご堪能ください。

平成28年3月28日

学校法人東京聖徳学園理事長
聖徳大学学長
聖徳大学短期大学部学長
学園長 川並弘純

『タピセロとんとん』のあらすじ

ある午後のシエスタ。海に面したのどかなスペインの町。

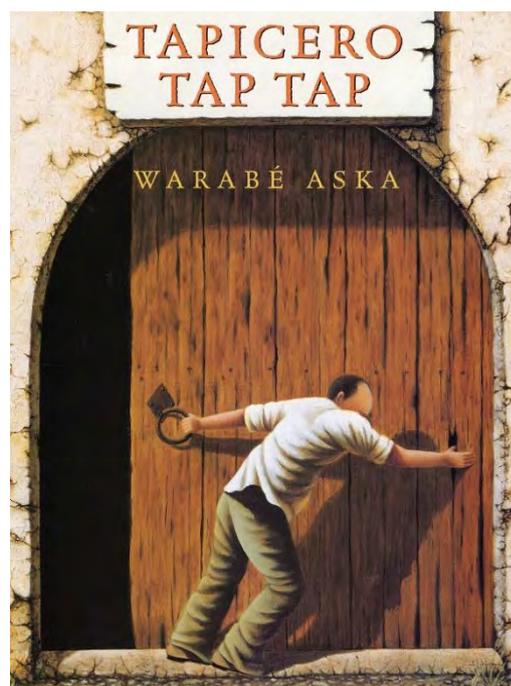
暑さで眠れない子どもたちが騒ぎ始めた。子どもたちはタピセロ(Tapicero)じいさんに遊んでほしくてしょうがない。タピセロじいさんはちょうど仕事を一休みしようとしていたところ。ハンマーをとんとんたたきながらつくっているのは、シエスタ用のおおきなソファだ。仕事道具を脇に置くと、タピセロじいさんは子どもたちを丘の上に連れて行った。昔々、大きな夢を持っていた少年の話をするために。「わしが幼いころ、お前たちとそんなに変わらない年の頃の話だ。海岸に行くところ、漁師たちがよく異国の話をしていたものだ……。」

宝を探して世界中を旅するという夢を、タピセロじいさんは戦争のために突然あきらめなければならなかった。そしてスペインの小さな村の質素な仕事場で家具をつくることになったのだ。でもタピセロじいさんは悲しんだりしていない。家族や友達、そして漁師たちと元気に暮らせる生活こそ何よりも宝物だと思っているからだ。みんなが楽しめる家具を作ることが生きがいなのだ。それに、旅をするのに遅すぎることなんてないのだ。

ワラベ・アスカのインスピレーション溢れるアートと心を動かすストーリーのコーポレーションが、時代を超えて感銘を与えてくれる。

[作者の言葉]

1976年から1978年まで、私はスペインのバルセロナ郊外の小さな町・シツセス(Sitges)で絵の制作をしていました。その時のアパートの一階が家具職人・タピセロの仕事場でした。毎日、朝早くから“とんとん”響くハンマーの音は、私の目覚まし時計のようでした。お人好しで働き者、子ども好きのタピセロとのお付き合いからこの物語は生まれました。



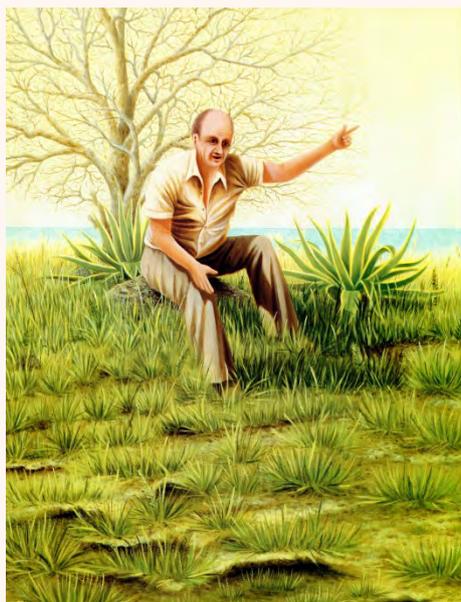
『タピセロとんとん』の表紙
(原題『Tapicero Tap Tap』)
(Tundra Books社、2006年)

『タピセロとんとん』原画展 主な展示作品

『タピセロとんとん』〈原題『Tapicero Tap Tap』〉
Tundra Books 社(Toronto & New York)、2006年発行



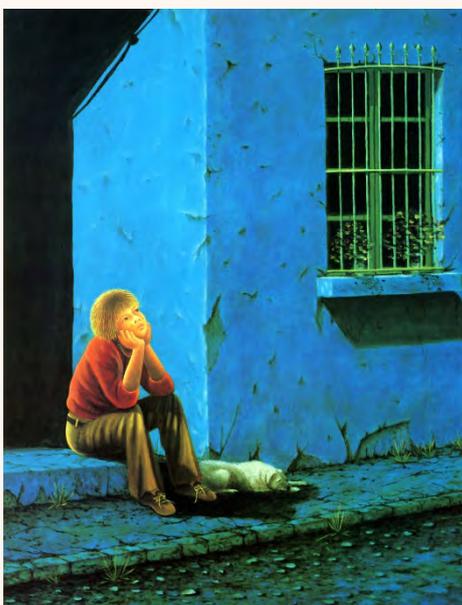
子どもたちの訪問 油彩 (45.5×33.0 cm)



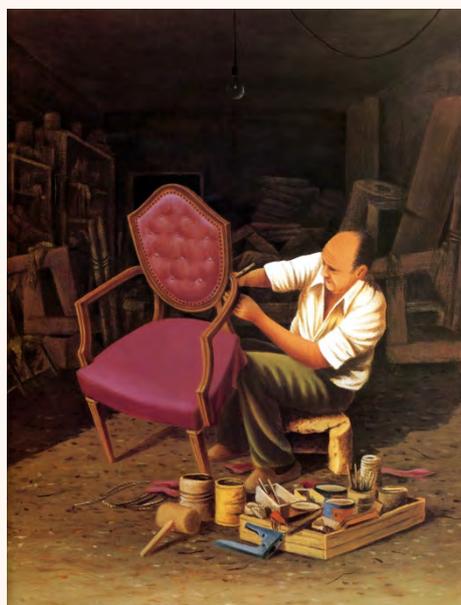
タピセロのお話 油彩 (45.5×27.5 cm)



話を聞く子どもたち 油彩 (45.5×33.0 cm)



孤独なルイス 油彩 (45.5×33.0 cm)



椅子の張り替え 油彩 (33.0×24.0 cm)



ブドウの収穫 油彩 (45.5×33.0 cm)



祭り子どもたち 油彩 (45.5×33.0 cm)



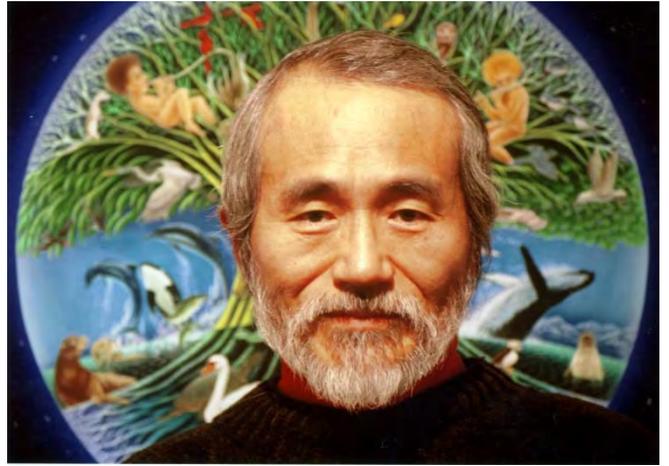
収穫祭のパレード 油彩 (41.0×53.0 cm)

飛鳥 童 (あすか わらべ) 画伯

1944年、香川県生まれ。

県立高松工芸高校図案科で商業デザインを学び、在学中に応募したコンペでは受賞多数。自動車会社の宣伝部、フリーランスの広告デザイナー・挿絵画家を経て、73年から3年間ヨーロッパを放浪。

79年よりカナダに移住し、82年同国の永住権を取得。84年、初めて描いた絵本『Who Goes to the Park』がトロント出版文化大賞を受賞する。



その後も、鮮やかな色彩感覚とイマジネーション溢れる作風が評価され、世界各国で数々の賞を受賞。97年には高円宮妃久子殿下より『氷山ルリの大航海』の制作依頼を受ける。

現在はカナダを創作活動の拠点に、日本で作品発表と幼児教育に取り組んでいる。

[主な受賞歴]

- ユニセフ・グリーティング・カードに採用 (1985年、1995年)
- トロント出版文化大賞、トロント市民栄誉賞、名声の歩道に刻名 (1985年)
- ライブチヒ国際図書展栄誉賞 (1986年)
- 国際スタジオマガジン賞金賞 (1990年)
- テヘラン国際イラストレーション・ビエンナーレ展グランプリ (1992年)

[主な作品]

- 音楽の絵本シリーズ『真夏の夜の夢』(アリス館、1977年)
- 『Who Goes to the Park』(Tundra Books、1984年)
- 『Aska's Sea Creatures』(Doubleday社、Toronto & New York、1994年)
- 『氷山ルリの大航海』(講談社、1998年)
- 『ワンダフルライフ・地球の詩』(小学館、1999年)
- 『タピセロとんとん』〈原題『Tapicero Tap Tap』〉(Tundra Books、2006年)

平成28年3月28日(月)～8月27日(土)

午前9時～午後5時 (休館 毎日曜・祝日と学事日程による休業日)

聖徳大学8号館1階 企画展示ギャラリー

JR常磐線・JR乗り入れ地下鉄千代田線・新京成線とも松戸駅下車、
東口より徒歩5分 (学内に駐車場はありません)